

お すけ やま おうしゆく
男助山鶯宿スギ希少個体群保護林

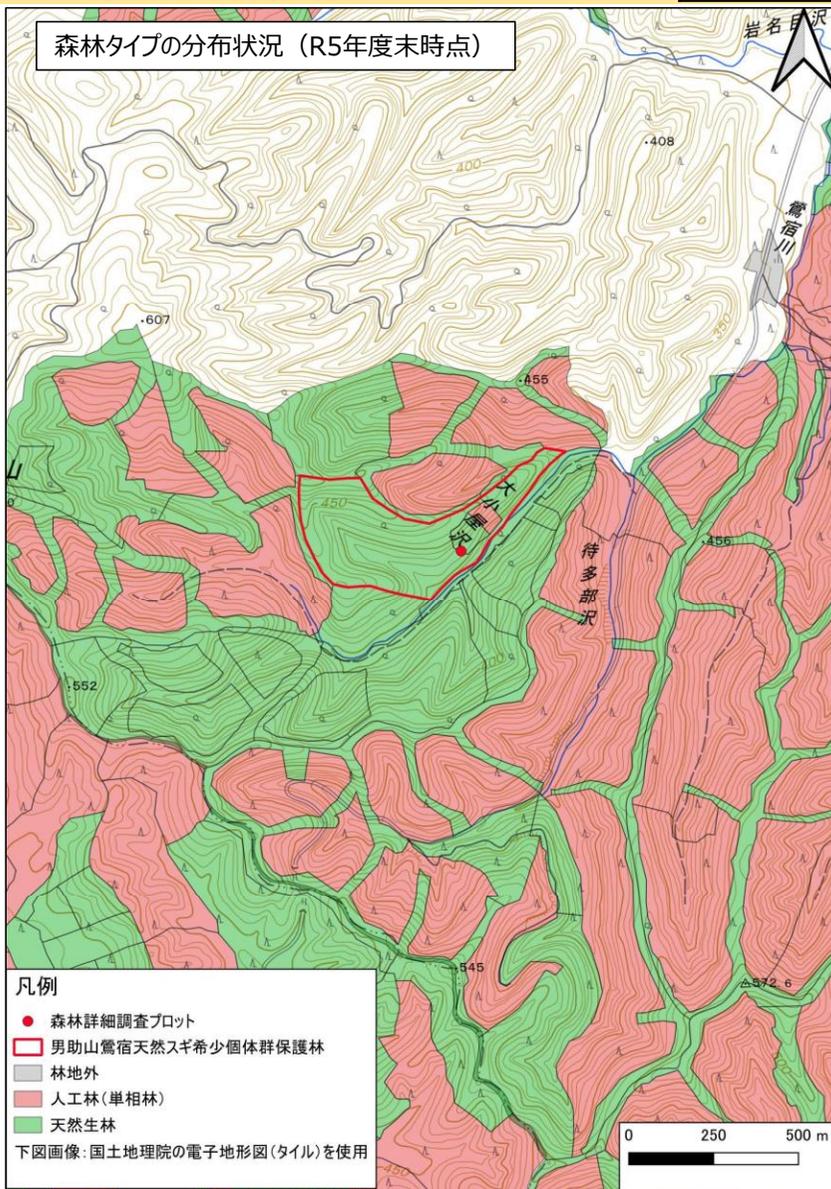
面積	計：15.00ha（盛岡森林管理署）
設定目的（管理方針書より抜粋）	岩手県雫石町の鶯宿川上流部に位置する、天然スギ、ヒバ、ネズコ、落葉広葉樹混交林で、このうち天然スギを保存すると共に自然の推移に委ねた場合の変化を観察・記録し、学術上並びに森林施業上の資料とする。
前回調査の評価・課題等	総合評価：問題なし
モニタリングの実施間隔	10年

デザイン

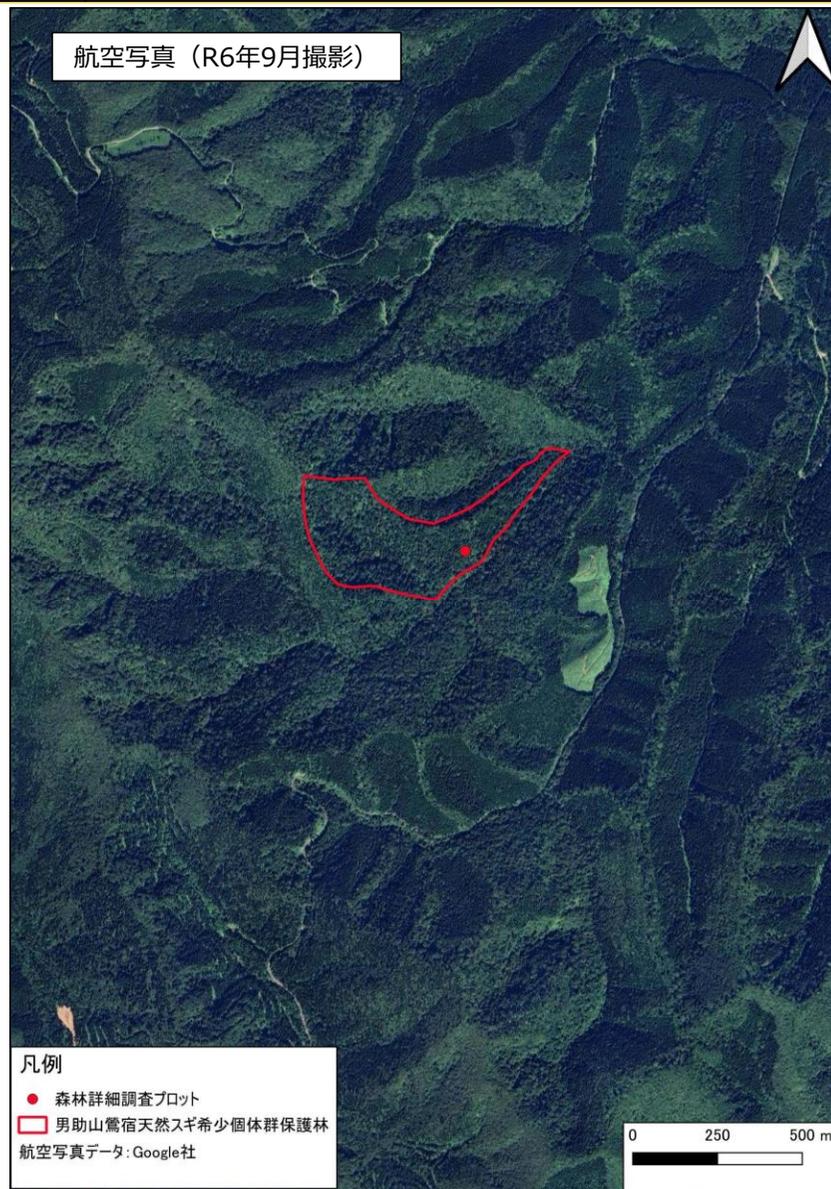
岩手県雫石町の鶯宿川上流部に位置する、天然スギ、ヒバ、ネズコ、落葉広葉樹混交林。



調査地の林況



本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。



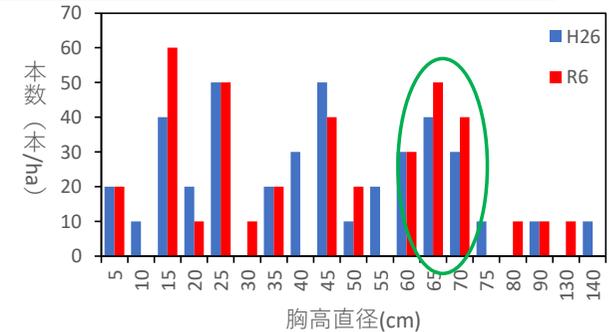
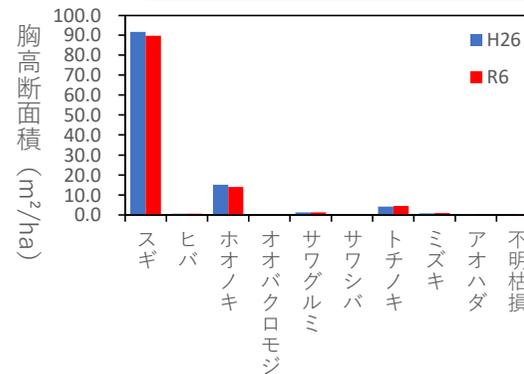
デザイン

森林概況調査、森林詳細調査

調査プロットNo.1

	H26	R6	
磁北			大きな変化はみられない
磁東			大きな変化はみられない
磁南			大きな変化はみられない
磁西			大きな変化はみられない
天頂			過年度より枝葉が少し込合っている。

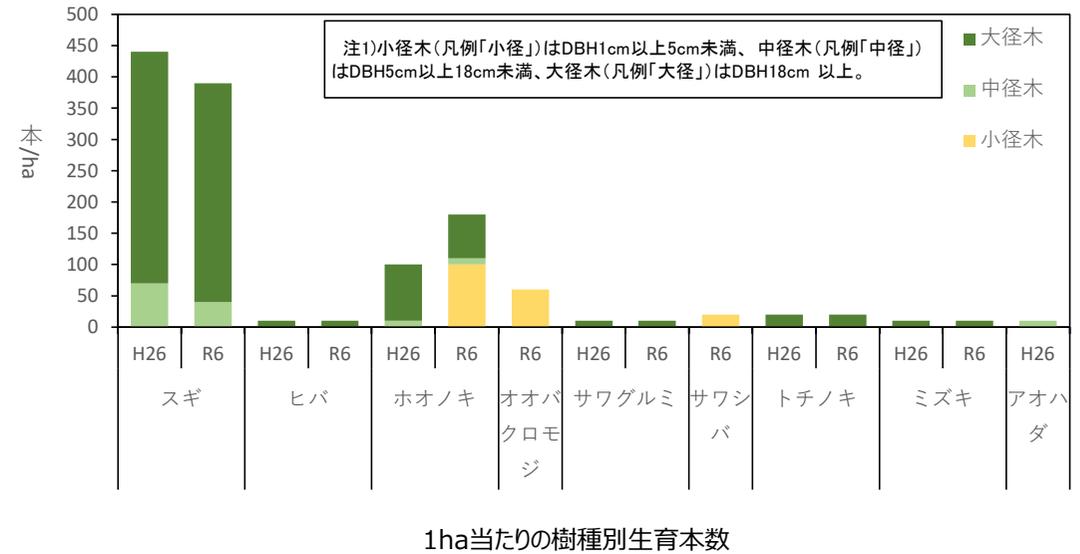
樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		ha胸高断面積割合	
	H26	R6	H26	R6	H26	R6
スギ	44.3	47.0	91.7	89.7	80.7%	80.4%
ヒバ	27.6	28.6	0.6	0.6	0.5%	0.6%
ホオノキ	40.6	20.3	15.0	14.0	13.2%	12.6%
オオバクロモジ		1.4		0.0	0.0%	0.0%
サワグルミ	40.3	40.7	1.3	1.3	1.1%	1.2%
サワシバ		3.3		0.0	0.0%	0.0%
トチノキ	51.1	53.2	4.1	4.5	3.6%	4.0%
ミズキ	30.1	33.9	0.7	0.9	0.6%	0.8%
アオハダ	16.4		0.2		0.2%	0.0%
不明枯損		17.6		0.5	0.0%	0.4%
9種			113.6	111.5	100.0%	100.0%



・保護対象樹種であるスギの胸高断面積はやや減少したが、平均胸高直径は44.3cmから47.0cmへ増加した。
 ・直径階分布では、H26で45～50cm階の本数が多かったが、R6では65～70cm階が増加し、スギが生長していることがわかる。

デザイン

樹種	ha当たりの生育本数 (本/ha)		本数割合	
	H26	R6	H26	R6
スギ	400	380	71.4%	57.6%
ヒバ	10	10	1.8%	1.5%
ホオノキ	100	150	17.9%	22.7%
オオバクロモジ		60	0.0%	9.1%
サワグルミ	10	10	1.8%	1.5%
サワシバ		20	0.0%	3.0%
トチノキ	20	20	3.6%	3.0%
ミズキ	10	10	1.8%	1.5%
アオハダ	10		1.8%	0.0%
9種	560	660	100.0%	100.0%



- ・保護対象樹種であるスギの生育本数は減少した。(毎木調査にて2本減少、原因は不明)
- ・調査プロット小円区では低木のホオノキ、オオバクロモジ、サワシバを確認した。ホオノキは株立ちで計測本数が多かった。
- ・大円には複数のスギの小径木がみられた。

デザイン

森林詳細調査 下層植生調査結果

年度	H26		R6		年度	H26		R6	
調査区	小・中円 ※1	大円	N	S	調査区	小・中円 ※1	大円	N	S
低木層の植被率(%)	10		5	20	ツルシキミ	○			
低木層の優占種	ツノハシバミ	※2	オオバクロモジ	ツリバナ	ミズキ		○		
草本層の植被率(%)	90		80	90	ツルアジサイ			○	○
草本層の優占種	ヒメアオキ		ミゾシダ	ミゾシダ	ノリウツギ		○		
出現種数	40	8	16	19	エゾアジサイ				○
ゼンマイ		○			イワガラミ	○			
ヤマソテツ	○		○		サワフタギ		○		
ミゾシダ	○		○	○	ハクウンボク	○			○
イヌガンソク				○	リョウブ	○			
ヒロハイヌワラビ				○	ホツツジ	○			
リョウメンシダ		○			ヒメアオキ	○		○	○
オシダ	○				アオダモ				○
ミヤマイトチシダ			○		ヤチダモ	○			
スギ	○				ムラサキシキブ	○			○
ヒバ		○			クサギ		○		
ハイイヌガヤ	○		○	○	アオハダ	○			
ホオノキ	○				ナンブアザミ	○			
オオバクロモジ	○		○	○	モミジガサ	○		○	○
ツクバネソウ	○		○		オオカニコウモリ	○		○	○
チゴユリ	○			○	ハリギリ	○			
タチシオデ	○				トチバニンジン	○			
オクノカンスゲ	○				オオカメノキ	○		○	
タガネソウ	○								
スゲ属の一種				○					
サラシナショウマ	○		○						
ヤマブドウ				○					
カラムシ	○								
ウワバミソウ	○								
カスミザクラ	○								
モミジイチゴ	○		○	○					
ミズナラ		○							
サワグルミ	○			○					
サワシバ	○								
ツノハシバミ	○								
ツリバナ	○			○					
タチツボスミレ			○						
スミレサイシン	○		○						
ツタウルシ	○								
ヤマモミジ	○								
トチノキ	○		○						

※1 H26調査区 小円、中円の全域。

※2 H26調査区 大円で初めて出現した種。

- ・出現種は前回調査時と大きな変化はない。
- ・調査プロット内の植生調査区外にスギの幼樹が生育していた。
- ・前回調査よりミゾシダの優占度が高くなった。
- ・外来種は確認されなかった。

植生調査区の林況



植生調査N区

植生調査S区

植生の特記



スギの幼樹

ミゾシダの優占度が高くなった

デザイン

実施した調査

資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)

病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況



虫の穿孔（スギ）

古いシカの食痕（スギ）



古い倒木（樹種不明）

シカの食痕（ウワバミソウ）

- ・スギの生立木に虫の穿孔がみられた（古いシカの剥皮部）。
- ・調査ルート of 沢沿いのウワバミソウにシカの食痕が多い（採食されやすい）。
- ・風害によるものと思われる古い倒木がみられた。

デザインに関する評価

基準	指標	結果
希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地が維持されている	希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。
		スギは高木～亜高木に多様な個体が生育し、また幼樹、低木があることから天然更新が確認された。 虫の穿孔のある生立木、枯損木があり、現時点で数は少ないが穿孔性害虫に注意を要する。

男助山鶯宿スギ希少個体群保護林

価値

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

項目	結果
病虫害	単木的に虫の穿孔のあるスギがみられた。
鳥獣害	記録なし。踏査ルートにてシカの食痕。
気象害	記録なし

価値に関する評価

基準	指標	結果
保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している	保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況	保護林内にシカの被害は少ないが、踏査ルート上ではウワバミソウなどの被害が多かった。 単木的に虫の穿孔のある枯損木が発生しているが原因は不明。

実施した調査

資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)

利活用

利活用に関する評価

基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	過去5年間における該当する資料は見つからなかった。

管理体制

- ・盛岡森林管理署
巡視が日頃から行われている。

管理体制に関する評価

基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	必要な管理体制が取られている。

総括表

調査年度		H26	R6	
調査日		2014/6/24	2024/9/13	
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)	SE、36度	SE、36度	
	局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面	
林分状況	段階	成熟	成熟	
	【高木層】	主要構成樹種	スギ	スギ
		樹高(m)	33~36	33~40
		DBH(cm)	60~80	60~130
	【草本層】	優占種	イワガラミ	ミゾシダ
植被率		90%	80~90%	
林分等の状況		胸高直径60~70cmのスギが主として林冠を構成しており、亜高木層にも直径30cm程度のスギが優占していた。亜高木層から低木層にかけては、スギ、ホオノキなどが生育していた。	急傾斜地に多様な林齢のスギが林冠を構成している。高木層、亜高木層はスギが優占し、低木層にはオオバクロモジ、サワシバ、ホオノキなどが生育する。林床はリョウメンシダやミゾシダが優占する。	
林況写真				

現地調査結果総括・考察

- ・調査プロット内ではスギが優占し、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向は、前回調査とおおむね同様であった。
- ・直径階分布でのスギの主要階は、45~50cm階から65~70cm階へ階新し、良好に生長していることがわかる。
- ・調査プロットの大円内でスギの幼樹、若木が生育しており、後継樹が生長できる環境である。
- ・下層植生では、過年度よりミゾシダの優占度が高くなっていた。
- ・踏査ルートでは、ウバミソウにシカの食痕が多数確認されたが、樹木への新たな被害は確認されなかった。
- ・虫害による穿孔痕のあるスギが確認されたが、現時点で緊急性は低いと考えられる。
- ・調査プロット、踏査ルートとも気象害による新しい被害はなかった。

まとめ・考察

全体まとめ

- ・森林タイプの分布状況に変化はみられなかった。
- ・対象樹種のスギが生長できる環境であり、幼樹や若木も育ち多様な樹齢が生育し天然更新が進んでいる。
- ・シカの被害は現状少ないが、継続した巡視が必要。
- ・虫の穿孔のあるスギはあるが、穿孔性害虫による影響の緊急性は現時点では低いと考えられる。
- ・継続的な巡視、及びモニタリングを実施し、被害等の状況の変化に注意する。

評価を踏まえた今後の対応等

項目	結果・対応等
今回の評価を踏まえた今後の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な巡視を継続 ・10年後にモニタリングを実施
保護・管理及び利用に関する事項 (保護林管理方針書)	<p>自然の推移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には管理経営の指針に基づき行うこととする。 ※現行どおりとする。</p>